



TITLE:

北支日系通貨に就いて

AUTHOR(S):

松岡, 孝兒

---

CITATION:

松岡, 孝兒. 北支日系通貨に就いて. 經濟論叢 1937, 44(1): 84-98

ISSUE DATE:

1937-01-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130885>

RIGHT:

# 京都市帝國大學經濟學會 經濟論叢

第四十四卷 第一號

昭和十二年一月一日發行

## 新年特別號

地方營業稅の課稅標準……………	法學博士 神戸正雄
固定資本論の一節……………	文學博士 高田保馬
土地所有の集中と分散……………	經濟學博士 八木芳之助
大都市時代の出現と <sup>その可</sup> 能原因の考察……………	經濟學士 中川與之助
經營協議會制度の成立……………	經濟學士 大塚一朗
北支日系通貨に就て……………	經濟學士 松岡孝兒
アメリカ經濟の發達と通貨論爭……………	經濟學士 堀江保藏
統計・統計調査・統計教育……………	經濟學博士 蜷川虎三
貿易と生産・消費との關係……………	經濟學博士 谷口吉彦
新國民主義と國民共同體……………	經濟學博士 石川興二
金融の動きと銀行勘定の増減……………	經濟學博士 小島昌太郎
新着外國經濟雜誌主要論題……………	

## 北支日系通貨に就いて

松岡孝兒

## 一、序言

周知のごとく支那經濟は、第十九世紀以來、先進資本主義制諸國の經濟的影響を受けて逐次國民經濟的段階にはいりこむに至つたが、實質的には依然として數個の地域的經濟の合成者であるといふ色彩濃厚であり、各地域的經濟には夫々其の支配的經濟中心があつて、全體的には尙ほ十分統一ある國民經濟を構成するに至つてゐない状態を示してゐた。勿論最近はこの統一主義、統一方針は著しく強化されてゐる。そして排日は此の對策として最も有效な役割をつとめた。併し何と云つても其の統一の程度は十分とは云へない。例へばここに取扱はんとする北支經濟のごときも、尙ほ充分國民政府的即ち中支經濟的であるとは云へない。北支經濟は依然天津なる經濟的中心をめぐつて確かに存在する一の歴史的地域的經濟である。そこではある點に關しては中支經濟の影響を受けるが、尙ほ他の點からは特種地域的特性が多分に存在してゐる<sup>1)</sup>。

此のことは通貨問題に關しても同様である。そしてそこに北支に於ける日系通貨が問題としてとりあげられる理由が見出される。支那は一九三三年謂はゆる廢兩改元を行ひ、更に一九三五年十一月には多年の本位制懸案を解決して金ポンドにリンクする金爲替本位制を採用し、一舉に近代資本主義的本位制に移行し、之を以つて全國

1) 章乃器：支那貨幣論；pp. 21-31；滿鐵經濟調查會：天津金融經濟管見，pp. 1-2、  
；東洋協會調查部：支那幣制改革の回顧，p. 17 以下；

的に幣制を統一せんとしたが、西南地區<sup>2)</sup>及び北支地區の反對は直ちに其の目的を達することを得せしめなかつた。殊に此の北支地區に於いては、其の後經濟的にまた政治的に幾度か特に此の地區を以つて支那の特種地區たらしめんとするの折衝乃至協議が繰返されてゐると謂はれる。何人能くこの北支經濟の特種性を無視し得やう。

此の意味に於いて私は、此の北支經濟に於ける一般通貨問題を重視するものであるが、今は深く之に觸れる暇はない。ここでは其の中特に日系通貨問題を中心として取扱はんとするものである。惟ふに此の問題は多くの點より今日北支に於いて最も注目されなければならない問題でありながら、實際上には比較的閑視されてゐるものの如く思はれるし、また然らずとするも日本は割合に問題の重點を逸してゐるのではないかといふ感があるからである。私は日本が今日まで此の北支經濟に拂はなければならなかつた其の歴史的事實の重要性に鑑み、今日此の日系通貨問題が一層深く反省され検討されて、日本の北支對策中最も重要性ある問題の一つとして政策されることを切望してやまないものである。

先づ之を最近の支那の事情に就いて見、更に之に對して日系通貨が如何に結合されてゐるかを見やう。

支那は一九三一年後の世界不況の深化と共に漸次金價の騰貴と銀價の低落とを伴ひ、遂に自ら世界不況の一環たる位置に於いて世界恐慌の渦に捲き込まれるに至つた。其のアジヤ的生産様式によれる原始産業上に醸成された深刻な農業恐慌は次第に其波及方向を工業部面に移したが、かかる形勢は更に北米合衆國の銀價引上策に煽られ、本位貨恐慌となつて舊來<sup>3)</sup>の支那經濟を其の根柢から動搖せしめた。此の本位貨恐慌は、他面に於いて支那幣制の統一傾向を助成し、そは遂に最近の廢兩改元問題となり、金爲替本位制の採用問題となつた。このことは更

2) 西南地區の反對は1936年に於いて中央政府の統一工作により一應解決した。  
3) 滿鐵上海事務所：恐慌の發展過程に於ける支那幣制改革の研究、第一編參照。

に低位に導ける爲替をして安定せしめ、從來専ら爲替利得に重點を置いてゐた一般外國銀行をして其の特種利益追及の根據を失はしめ従つては其の存在理由をも稀薄ならしめたが、更に他面には支那に於ける新式銀行の成立を容易ならしめ、其の爲替取引への進出を有利ならしめることとなつた。此の傾向は具體的に云へば謂はゆる浙江財閥の近代資本主義化に益々拍車をかけることとなり、かくて上海金融市場の國內各地區金融市場支配を著しくし、従つてその影響は天津金融市場に向つても強化されるに至つた。

このことが北支金融市場たる天津に於ける多數外國金融機關の地位に影響したことは勿論である。日本金融機關もまた遂に其の影響を蒙らざるを得なかつたことは斷るまでもない。就中日本爲替銀行としては明治三十二年早くも横濱正金銀行支店の天津進出があり、更に大正元年には天津銀行の設立、大正四年には正隆銀行支店、大正七年には朝鮮銀行支店の進出を見るに至り、大正元年以後は天津に於ける貿易總額の約半ばを占め、日本の對北支經濟關係をして歴史的に確固たるものたらしめることとなつたのであるから、此時に當つてかゝる新情勢の出現したことは到底無視し得ないところである。

日本の對北支經濟勢力の發展は實にかかる過程に於いて築かれたものである。従つて今日支那幣制統一問題の擡頭にあたり、日本より見たる其の検討を展開し其の對策を歴史的發展的地盤に於いて吟味し準備せんとすることは、まことに當然すぎるほど當然なことで謂はなければならぬ。

日本の銀行中特に著名なるものは横濱正金銀行と朝鮮銀行とである。ゆゑに私は以下では専ら此等二銀行を中心とし、まづ此等銀行に因る歴史的日系通貨流通段階を明かにすると共に、更に其の内容に立ち入り、其の特性

と實質とより、今日北支に於ける日系通貨問題は如何なる對策を必要とするものであるかといふことに觸れるであらう。

## 二、日系通貨流通發展段階

北支經濟の中心たる天津に於ける通貨が謂はゆる華北經濟地區の通貨として支那經濟のみならず外國經濟に結合せることは既に古く二百年の昔に遡ることが出来るが、中外互市としてこの役割を有つに至つたのは一八六〇年の以後である<sup>1)</sup>と云はれる。

日本が此の天津通貨に關係を有つたことも從つて相當古い時代まで遡ることができやう。併し今ここで問題とせんとするのは主として明治二十七八年戰役以後の發展である。此の時代以後の日系通貨の發展は之を四つの時期に分けられ得る。第一期は明治二十七八年戰役後より明治三十七八年戰役に亘る期間であり、第二期は明治三十七八年戰役後より世界大戰に亘る期間であり、第三期は世界大戰後より滿洲國成立に至る期間であり、第四期は其後より今日に及ぶ期間である。以下更に期を追うて逐次説明をば加へるであらう。

尙ここで一言述べなければならぬことは、一般に日系通貨と云つてゐるものの中には二つの系統があるといふことである。一つは金本位系統の日系通貨であり、も一つは銀本位系統の日系通貨である。具體的に云へば前者は日本銀行券及び朝鮮銀行券乃至は滿洲國國幣冀東銀行券を指すものであり、後者は橫濱正金銀行券謂はゆる鈔票を指すものである。唯今日では鈔票は次第に其の存在を薄めて居つて、今後に於いて問題となるものは金系

\* 勿論謂はゆる華北と北支とは同一内容のものではない。併し嚴密に云へばここにいふ北支といふものも從來一般に北支と考へられてゐる地區と一致しない。唯ここにいふ北支は從來謂はれてゐる北支以上のものでもなければまた華北以上のものでもない。

5) 滿鐵經濟調查會：天津金融經濟管見、p. 2

統の日系通貨である。それで本論に於いては主として日本銀行券及朝鮮銀行券を中心として取扱ふ。滿洲國國幣冀東銀行券に關しても興味ある問題なしとしないが、今はこれに立入る餘裕はない。別稿を期したい。

先づ第一期に於ける日系通貨の流通は明治二十七八年戰役後に於ける日本經濟力の北支進出に基く。蓋し同戰役の結果は天津に日本居留地が設定され更に日本軍隊の駐割を見るに至り、此等の事情は日本の對北支貿易従つては日本の對北支經濟力の伸張を益々促したからである。その結果明治三十二年には橫濱正金銀行は天津にその支店を進出させたが、此の時期に於ける日系通貨は専ら日本銀行券であつた。<sup>6)</sup>

第二期に於ける日系通貨の流通は、明治三十七八年戰役後に於ける日本經濟力の發展自體にもよるが、尙ほ特に注目すべきものは日本經濟力の滿洲への進出並にこれによつて促進された滿洲と北支との經濟的交渉の發展によつたものである。殊に明治四十二年朝鮮銀行設立され大正七年同行支店の天津に設置されるに及んで、朝鮮銀行券はあたかも日本滿洲及北支間の一種の爲替手形として、其の通商貿易上に好ましい存在を示すに至つた。就中世界大戰後惹き起された世界的な銀價の下落従つては金價の騰貴は、ここに錢鈔取引を成立せしめ、其の天津に於ける盛行は日系通貨流通の黃金時代を現出するに至つた。此の意味からして此の時代に於ける日系通貨の花形が朝鮮銀行券に依つて代表されたことはまた斷るまでもないことである。

尤も此の時期に於ける日系通貨として注目すべきものには外に正金銀行鈔票がある。橫濱正金銀行は明治三十九年九月勅令に依り支那及び關東州に於いて銀行券の發行を認められるに至つたのであるが、一種の貿易通貨として流通した。銀系統に於ける日系通貨として金系統に於ける朝鮮銀行券と對比されたことは上述せる點より容

6) 橫濱正金銀行天津支店の設置以前の貿易其他に使用された日系通貨も亦日本銀行券であることは勿論である。但此の時の日本銀行券は日本郵便局に依つて管理されてゐた。  
7) 關東州に於ける正金銀行鈔票は1936年10月18日を以つて滿洲國通貨統一策の犠牲となつた。

易に推測されるところである。この點については後に更に述べる。

然るに第三期に至つて北支に於ける日系通貨の流通は、世界大戰後の不況、従つては北支對日貿易の消極化による影響を受けざるを得なかつた。特に注目すべきは濟南事件後の日貨抵制及びその必然的結果たる支那固有經濟力の發展就中大戰後の不況下に暴露された朝鮮銀行の不振であつた。この時期に於ける北支金系通貨は第二期と同様朝鮮銀行券を主とするものであるが、併しその實際は第二期がその黄金時代であるのに反して全く正反對の過程を辿つたものであつて、此の意味では金系通貨の停頓時代であるといふことができる。

最後に第四期に就いて見ると、世界大戰後の銀價低落後は、先づ支那固有の經濟力の發展を促すこととなり、多年問題となつた支那の通貨本位制問題は、その經濟の發展と共に再び問題となり、一九三三年の廢兩改元を通じて一九三五年には遂に金ポンドにリンクする金爲替本位制を採用するに至つた。このことは北支通貨をも逐次中央化せしめんとしたが、他方冀察政權の成立は北支に於ける日支經濟提携工作の進展と相俟つてここに日系通貨問題に關して重要な吟味を加へざるを得ない機會を生ぜしめるに至つた。しかも亦他方滿洲國の成立は一應は朝鮮銀行をして其の從來の經驗による金爲替本位制的通貨政策の滿洲國進出を有利ならしめたが、その後、於ける滿洲國幣制問題の經過は一九三五年十一月を以つて一種の金爲替本位制を採用せしめることとなり、更に同行を中心とする滿洲國金融統制計畫の追及は從來滿洲國に於いて發券銀行として活動せる朝鮮銀行をして滿洲國に於ける通貨造出銀行たるの地位よりの退却を餘儀なからしめると共に、更にこのことは北支の日系通貨問題に二つの波紋を提供するに至つたのである。その第一は北支日系通貨進出機關としての朝鮮銀行問題であり、そ



の第二は冀東地區に於ける冀東銀行問題である。

この二つの問題は勿論何れも北支に於ける日本經濟力の發展に伴ふものであるが、北支に於けるその中心が天津金融市場であることは明かであり、かかる事情に於いて日系通貨問題は再検討されるの事情に迫られて居り、特に朝鮮銀行は北支に於ける新情勢に應じて最も活潑な日本經濟力の尖兵たる日系通貨進出機關としての役割を高度に期待されてゐる事情にある。冀東銀行に關する日系通貨問題は別の機會にゆづる。

### 三、日北支系通貨の特性

北支日系通貨は、天津金融市場を中心として流通するものであるが、それは一定の自然的な需要供給過程に基いて流通すると共に、更にまたそれが運營される人爲的な需要供給過程に基いても左右されるものである。

一般に日系通貨の自然的な需要過程として考へられてゐるものには、(イ)滿洲より天津への密輸入決済に要する需要、(ロ)天津の金票建支拂に要する需要、(ハ)日本及滿洲への旅行に要する需要、(ニ)錢鈔取引に基づく鞘取引のため金票現物の持出に要する需要等が擧げられ、更に人爲的な需要過程として考へられてゐるものには、(イ)日本よりの輸入代金決済に要する需要、(ロ)天津よりの日本宛送金の金票拂込に要する需要、(ハ)金票建預金の預入に要する需要(ニ)金票引上政策による買入に基づく需要等が擧げられる。

更に日系通貨の自然的供給過程について考へられてゐるものには、(イ)錢鈔取引受渡のために必要とされる金票現物輸入による供給、(ロ)天津の對日滿密輸出決済のための金票現物携行による供給、(ハ)日滿より北支への旅行者

の携行による供給、(ニ)滿洲通貨安定の目的に於いて賣却せる金票の供給、(ホ)日本よりの天津宛送金に對する金票支拂による供給が舉げられるが、更に人爲的供給過程としては、(イ)日本宛輸出代金の金票支拂による供給、(ロ)金票建預金の金票支拂による供給。(ハ)金票建貸付による金票支拂に基く供給等が考へられる。此等日系通貨の流通はその流通工作が積極的に行はれた時期に於いては、自然的過程と人爲的過程とは一の渾然融和せる現象として現はれたが、それが消極的に行はれた時期に於いては兩者の關係は之れに反する状態を示した。

天津に於ける日系通貨流通過程は上述せる點で略々説明される。北支金融市場に於ける日系通貨の流通は、結局は日本、日本經濟力下にある滿洲國、日本經濟力據點たる天津及び之れを繞る北支地區、此等三つのものの經濟的結合關係特にその依存關係を中心として運用される一種の金爲替本位制的通貨の流通關係である。

唯しかし日系通貨たる日本銀行券及び朝鮮銀行券は、夫々法律其他によつて定められた地區に於いて法貨として流通する特權を有つてゐるが、かかる特權は支那は勿論北支那に於いて何等保證されてゐるものではない。北支に於いて法貨として認められてゐるものは支那の通貨即ち支那に於ける金爲替本位制によつて運用されてゐる本位貨である。上掲日系通貨は支那通貨と結合してその貨幣性を發揮することが出来る。併しかかる法貨問題を除外しても上掲日系通貨の有つ購買力なるものは極めて堅實なものであつて、日本及び支那兩國間の對外的支拂手段としては極めて信認大なる存在であり、斯かる意味に於いて上掲日系通貨は支那に於ける一の有力な爲替通貨とも稱し得るものである。

更に北支に於ける上掲日系通貨の特性として注目すべきことは日系通貨の不兌換乃至不引換問題である。この

ことは日本が金本位制を停止してゐる事情よりして一應當然なことであるが、更に問題は日本銀行券と朝鮮銀行券との引換に關しても考へられる。元來朝鮮銀行券は朝鮮銀行法第二十一條第二項の規定により日本銀行券に引換へらるべきことになつてゐるのであるが、北支では朝鮮銀行券は單なる爲替通貨であつて法貨として絶對通用力を有つてゐないと考へられてゐるので、此等兩者間にはこの點から引換は認められないとも考へ得られる。從つて今朝鮮銀行券の日本銀行券への引換需要が日本銀行券の之に對する供給よりも大なるときは朝鮮銀行券は日本銀行券に對して一定の打歩を以つて引換られることの可能を考へさせる。このことは更に立ち入つて云ふと、本來金系統の日系通貨として等價值を以つて計算され自由に且つ無制限に引換へらるべきものが、凡てその逆なる事情にあることの可能性、即ち朝鮮銀行券が日本銀行券に對して少くもその信認の程度に消極的なものがあるといふことを考へさせるものであつて、北支に於ける日本の通貨政策上重大な影響を來さざるを得ない事情の成立可能を考へさせるものであるといはなければならない。

若しかかる虞ありとすれば、日系通貨特に朝鮮銀行券は爲替通貨として北支流通上に重要な存在を有ちながら其の價值の不同從つては之に伴ふ標準價值手段としての價值が異つて評價されることとなり、究極朝鮮銀行券の標準價值手段としての積極性を裏切るものであり、その限り北支經濟機構に於ける朝鮮銀行券の積極的な存在を主張し得ない。そして若しかくの如く朝鮮銀行券が北支經濟機構に積極性に於いて結合しないとすれば、日本が今日北支に於いて其支配政權と共に計畫し實施せんとしつゝある經濟提携工作の實現上、極めて重大なる省察を要するを語るものである。蓋し北支通貨中最もよくその價值が安定して居り、日本銀行券と等價值であると考へ

(8) 第21條朝鮮銀行ハ銀行券ヲ發行スルコトヲ得。  
前項ノ銀行券ハ朝鮮銀行ノ本店及支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ金貨又ハ  
日本銀行兌換券ト引換フルモノトス。

られてゐる朝鮮銀行券が、日本銀行券と等価値で引換へれない従つて価値が相等しくないといふことはどう考へてもその貨幣的信認に於いて充分であるとは考へ得られないからである。今日の狀態に於いては朝鮮銀行券流通の増加は其れ自體を見れば、日本經濟力發展の表徴として一應は考へられ得るものかもしれないが、朝鮮銀行券を通じて十分な日本經濟力發展の結果を齎さんがためには、其が日本銀行券との間に価値の相違があることの可能を許し得るものではない。兩者間の価値の統一即ち日本銀行券と朝鮮銀行券との価値を等しからしめることに關する對策は朝鮮銀行券を以つて爲替通貨と解する限り極めて重要なことであると考へられる。

尙かかる特性が生ずる根本原因としては、勿論此等二種の日系通貨に關する上掲需給關係が基礎となる。此の場合北支と日本との經濟關係は商品的に考察しても資本的に考察しても日本の出超であるが、北支と滿洲との關係に於いては少くも資本的に見て滿洲は支拂勘定である。<sup>9)</sup> このことは北支から見ると對目的に支拂勘定となり對滿的に受取勘定となる。従つて北支金融市場としては、日本銀行券に對しては需要關係上より、朝鮮銀行券に對しては供給關係上より之を問題とするに至るものであるが、此の間にあつて朝鮮銀行券は其の地理的關係に於いて屢々現送されるが、之に對して日本銀行券の現送とは地理的にコストを高めることとなり此等の事情は上述せるが如き需給の不一致を生ぜしめるの虞あるを思はしめるものであると考へられる。

#### 四、謂はゆる日系通貨の内容

本論に於いて問題とせんとする日系通貨中最も重要なものは、日本銀行券及び朝鮮銀行券である。尙ほ此外に

9) しかもこのことは日本と支那との經濟關係に於いても同様である。

横濱正金銀行も亦日本政府の爲替銀行たるの特權の外に支那に於ける銀行券の發行權を有つてゐる。<sup>10)</sup> 一般に鈔票と呼ばれるものは同行の發行券である。横濱正金銀行は明治三十二年三月以後日本政府の在外國庫金の取扱並に預託を受け日本銀行の在外代理店として政府並に日本銀行の在外正貨の取扱並に預託を受けてゐる。従つて鈔票の發行に關しては上述のごとくではあるが日本銀行券に關しては國庫代理店としての業務を行ふ。尤もこのことは横濱正金銀行をして國庫代理店としての手数料を徴收せしめるものであるから日本銀行券流通自體に關しては特段なる利害關係を有たない。

これに反し朝鮮銀行は明治四十二年の設立以後日本の大陸政策の實行機關として認められ、大正六年十一月以後は朝鮮銀行券を以つて關東州及び滿鐵附屬地に於ける法貨と認めしめ更に國庫事務を取扱ひ、ここに滿洲及關東州に於いては實質上及名義上一の發券銀行として機能するに至つた。特に大正七年八月日本がシベリヤに出兵するに至れる結果は、同行をして北滿及シベリヤ各地に於ける國庫業務を管掌せしめ、その結果金爲替本位制系統の通貨制度運用に重要な經驗を積ましめるに至つたのである。<sup>11)</sup> 唯併し北支に於いては朝鮮銀行は日本銀行の代理店として活動してゐるものではない。だからその銀行券の發行のごときも支那に於いては認められてゐない。従つてその銀行券は爲替通貨としての役割は果してゐるとは云ひ得るけれども、それもまた決して充分であるとは云ひ得ない。このことは世界大戰後に於ける朝鮮銀行不振の結果たるその消極的存在より一轉して今日の事情を成立せしめた以上、現在に於いて極めて注目を要する改革方面であることは明かである。特に上述せるが如く、滿洲國成立後に於ける滿洲中央銀行の設立及び其の發展は、必然的に朝鮮銀行をして滿洲中央銀行に於ける

10) 明治卅九年九月勅令は清國及關東州に於いて横濱正金銀行に銀行券發行を許可しその銀行券を以つて支那に於ける一切の公私取引に無制限に通用することが定められた、この發行券は今日に於いては排日問題のため餘り巨額にしてゐない。

11) 朝鮮銀行：朝鮮銀行二十五年史、p 176-180

滿洲國金融統制政策の追及計畫及實施を肯定せざるを得ざらしめたものであり、ここに朝鮮銀行をして最近に於ける日本經濟力の發展に鑑み、北支爲替通貨としての朝鮮銀行券をば爲替通貨以上のものとして即ち標準價值手段として漸次北支經濟工作に参加せしめんとすることの重要なことを認めしめるに至つたのである。

唯ここに問題となるのは、朝鮮銀行が日系通貨工作に關して斯くの如き積極政策を採るに於いて稍々もすれば從來採用されてゐた横濱正金銀行との間の協調政策上に支障を來す虞れなきかといふ點への考慮である。即ち朝鮮銀行が輸入手形の決済にまた輸出手形の決済に同行銀行券を用ひるに至るときは、價值の動搖しない通貨によるの長所は、これがため北支に於ける輸出入業者は勿論一般商業者と雖も朝鮮銀行を通ずる同行銀行券による取引を以つて有利なりとするに至り、ために貿易銀行たる横濱正金銀行の取引先中には取引銀行を朝鮮銀行に變更し、朝鮮銀行券による輸出入手形の決済を行はんとするものが生ずるに至らざるかといふ問題である。果して然りとすれば是れ實に從來の日本二大銀行間に永く行はれ來つて矛盾を見なかつた協調政策に難色を見出さざるを得ざるものといふべきであり充分對策を要する點である。

更に朝鮮銀行が採用する積極政策として、朝鮮銀行券の流通を増加せしめるときは、そのことは自ら朝鮮銀行券を増發せしめ朝鮮銀行券を日本銀行券に引換へんとするの傾向を惹起することとなり、このことは朝鮮銀行をしてややもすれば、その手持日本銀行券の増加をはからしめることとなるものであつて、それは從來行はれてゐた日本銀行券は之をば正金銀行に引渡すといふ方法に修正を加へしめるものであり、そのことは自ら兩銀行の間に從來のやうな意思の疎通を見ることが出來なくなるのではないかと考慮される點である。

更に第三には北支に於ける通貨不安は屢々鈔票建預金を金票建預金に變更せんとするの傾向現はれ、この事情の影響は逐次鈔票建預金を減ぜしめんとするであらうが、此の事情は偶々正金銀行預金を減ぜしめて朝鮮銀行預金を増加せしめんとするの事情を生ぜしめるに非るかといふことを思はしめる。

由是觀之日系通貨問題に關しては確に一の統制策を必要とする事情にあることを考へさせる。その點をば更に立入つて述べると次のごとくになる。

第一は上述せるが如く朝鮮銀行券の日本銀行券への不引換成立の可能は、朝鮮銀行券と日本銀行券との間に需給額が一致しないことによるものであるから、この問題を解決して朝鮮銀行の積極策を維持せんがためには、朝鮮銀行券の無制限引換を實施すべき方法を決定するか、然らざれば朝鮮銀行券を日本宛爲替手形に對して無償兌換をするか、何れかの方法を採用しなければならぬ。併し實際上かかる政策の採用は朝鮮銀行の堪へ得るところでない。従つてここに考へられることは引換金額の限定乃至正金銀行と同率の送金手数料の徴收といふことになる。併し此の方法では結果は極めて消極的にしか現はれない。これによつて朝鮮銀行券と日本銀行券との平價の相違を消滅させるがごときことは到底不可能であると考へられるからである。

尙又朝鮮銀行がその積極策を實施するに際しては外國爲替管理法並に關東州及滿鐵附屬地外國爲替管理規則に牴觸しないかといふ問題がある。此點に關しては發券業務についてのテクニクにつき各種の論議が考へられるが、併し上述せるがごとき違反は否定し得ないところであらう。朝鮮銀行の積極策については斯る點への考察もまた忘るべからざるものである。

最後に第三の點はかかる朝鮮銀行の積極策は朝鮮銀行自體にとつては輸出入爲替を朝鮮銀行に集中させ得る利益があるから、たとひ爲替利益が少くても取引量の増加によつて利益を得るものであり、かかる點からは結局不當な利益を受けるといふがごときことは考へられない。問題はむしろ金票建貸付を利用してその貸付政策を放漫ならしめんとする危険にある。蓋しこの方法によると日本内地で低利資金を借入れ、これを發行準備とし外地に於いて高利を以つて之が貸付を行ひ得るがごときことが考へられるからである。

## 五、結 言

以上述べたるがごとく北支に於ける日系通貨問題に關しては今日極めて重要な時期に直面してゐる。日本經濟諸力の發展は日支經濟提携工作の發展と共に通貨問題の重要性をば顯著に増加させてゐるにも拘らずその通貨政策の設計乃至準備は今日頗る遲滞してゐるの感がある。

併しながら斯かる遲滞もこれを今日より見れば日本の支那經濟特に支那の通貨金融に關する無關心乃至は無方針が之を導いたと考へられる點もないではない。北支のごとき滿洲の接壤地區に於いては特にこのことは反省されなければいけない。日支間の最近の客觀的事情は何と云つても今日かかる事情の打開とその積極的展開とを最も喫緊事とするものであり、あらゆる意味に於いて吾人の關心はこの點に深き反省を求めざるを得ない。

唯併し上述せるがごとき積極策の主張があると云つてもその實施に關しては更に一層周到な反省を必要とするものであることは素より當然である。特に上述せる三つの問題中第二第三の問題は大體日本大藏省、朝鮮總督府



及び關東局等によつて規定され監督されるべきものであらうが、第一の問題即ち朝鮮銀行券を以つて一種の爲替通貨と見る場合朝鮮銀行の積極政策遂行上に現はれる朝鮮銀行券と日本銀行券との間に起る需給喰違の問題に關しては如何なる機關が如何なる方策を講ずべきであらうか。現状を以つて判斷するかぎり朝鮮銀行の積極策を認める以上の點に對する統制は最も重大な決心と對策とを要すべきものではないであらうか。一國通貨政策の積極策を肯定せざるを得ない場合、其國に於いて運用される各種の通貨間に需要供給間の不一致を生ぜしめんとするがどとき不安はそれ自體その積極策を傷けるものでなくて何であらう。

北支日系通貨に於いて今日最もデリケートなものを含む問題はまことに多い。このことは日本が對支經濟提携工作を行ふ場合、其の産業工作とは恰も盾の兩面のごとき關係に於いて準備され計畫されなければならない。今日、日本のこの問題に對する對策には果してかかる反省を必要とせざるや、今にして熟慮對策を密にしなかつたならば必ずや後年嚙臍の悔を残すであらうこと全く火を睹るよりも瞭かである。